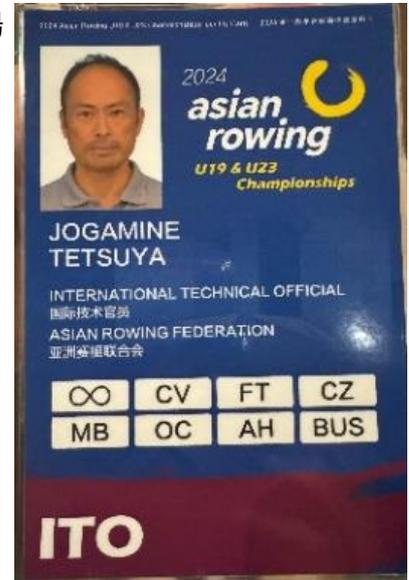


2024 Asian Rowing U19 & U23 Championships 参加報告書

熊本県ローイング協会所属
国際審判員 城ヶ峰 徹也

1 はじめに

2024年9月9日(日)から15日(日)にかけて、中国・瀋陽で開催された標記大会に ITO(International Technical Official)として参加いたしましたので、その審判業務等について報告します。



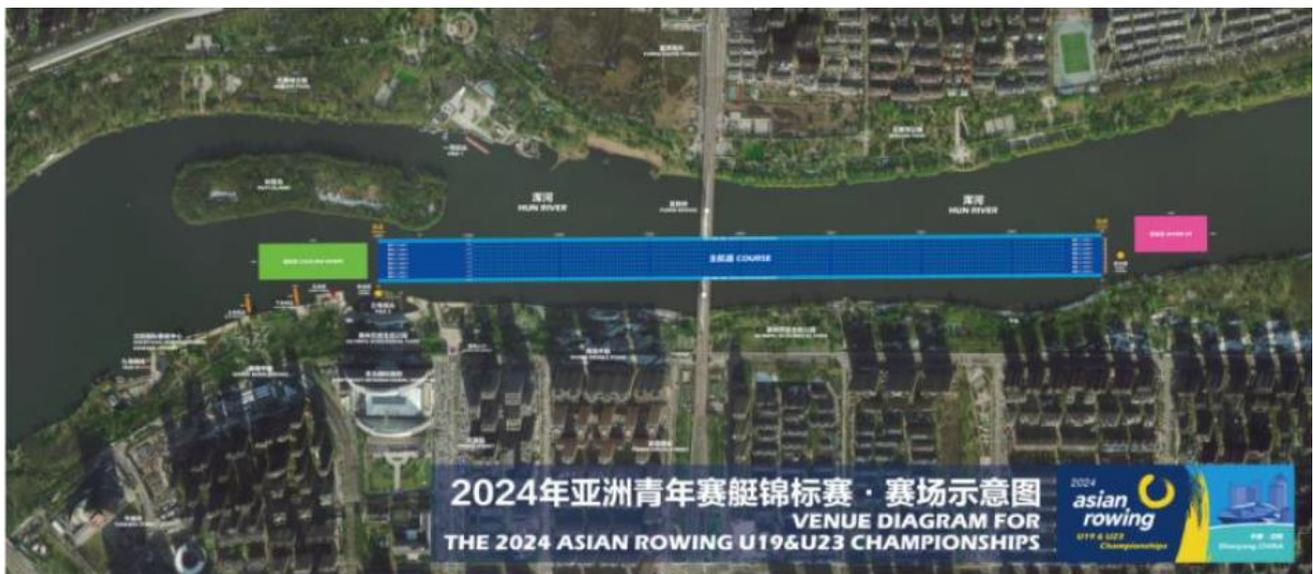
2 大会概要

大会名：2024 Asian Rowing U19 & U23 Championships

日時：2024年9月11日(水)～14日(土)

会場：Hun River (Central Urban Section) 2,000m

中華人民共和国 遼寧省 瀋陽市 Shenyang international Rowing Center



Event course and Venue map

種目：U19 及び U23 とともに

M1X, M2X, M2-, M4-, M4X, W1X, W2X, W2-, W4-, W4X (全 20 種目)

参加国：CHN, HKG, KOR, JPN, MYA, MAS, UAE, VIE, TPE, IRQ,
PRK, KAZ, IND, IRI, KUW, KSA, SRI, THA, UZB (計 19 か国、144 クルー)

2024 ASIAN ROWING U19 & U23 Championships



9月8日(日) 中国・瀋陽入り(福岡空港発→上海浦東国際空港経由→瀋陽桃仙国際空港)
→OCによる送迎でホテル(瀋陽国賓酒店 Shenyang Guo Mao Hotel)へ

9日(月) 10:00 First Jury Meeting (@ITO meeting room)
10:40 Pick up the walkie-talkie & Venue Tour
16:00 Racing System Testing (@Start Area)
※ホテルと会場間は約1.3km。徒歩移動であり、昼食はホテルに戻ってとり、午後からまた会場に徒歩で向かった。

10日(火) 10:00 Practice start 60 mins【担当:Umpire boat 2: 500m observation】
→5.6レーンのフィンガーを開放し、練習クルーの希望者の艇を
付け、5分おきにスタートさせ、機器の動作確認と連携を確認。
11:20 Jury summary (@ITO meeting room)
15:00 Team Manager Meeting & Draw (※ジャケットとネクタイを着用要)
→ボートホルダーへのペットボトルの投げ渡しはしないこと。
した場合は、Yellow Card とすることをTDから伝えられた。
18:30 Opening Ceremony
& Welcome Dinner



Opening Ceremony & Welcome Dinner

Others

- TMM will be held daily 20 minutes after the last race start except for final day. (9/11~9/13)
- Do not throw water bottles to the boat holders.
- Respect and comply with the traffic rules.
- No cycles rentals
- Please sign off commitment form
- Please check each national flags and anthem



Team Manager Meeting

11日(水) 7:45 Jury meeting (@ITO meeting room)
9:00-11:30 Heat & Preliminary Race (morning session)【担当:Umpire-Boat 2】
14:00-16:20 Heat & Preliminary Race (afternoon session)
16:40 Team Manager Meeting【担当:Responsible CC】
17:10 Jury summary

12日(木) 7:45 Jury meeting (@ITO meeting room)
9:00- 9:50 Repechage (morning session)【担当:Responsible Judge at the Finish】
14:00-14:50 Repechage (afternoon session)【担当:Starter】
15:10 Team Manager Meeting

13日(金) 7:45 Jury meeting (@ITO meeting room)
9:00-10:40 Semi Final & Final B (morning session)【担当:Umpire-Boat 3】
14:00-15:40 Semi Final & Final B (afternoon session)【担当:CC In-Pontoon】
16:00 Team Manager Meeting (→Canceled)

14日(土) 7:15 Jury meeting (@ITO meeting room)
8:30-10:20 Final B & Final A (morning session)【担当:Umpire-Boat 3】
13:30-14:50 Final A (afternoon session)
【担当:Umpire-Boat 5 (leading medalist to Award-Pontoon)】

15日(日) 帰国(瀋陽桃仙国際空港→東京国際空港(成田)→福岡空港)
※台風13号が上海直撃予想のため、予約していた便が早朝に欠航となる。急いで
成田行きの便を予約し、輸送計画も変更してもらい、東へ迂回して帰国した。

5 日本選手の成績【U19】

- ・JM4X：和田潤誠（新居高校）、永坂日鼓（東レ滋賀）、杉原清斗（京都工学院）、渡邊ルーク（会津高校） 総合2位（出漕8クルー）
- ・JW2X：中島真央（成立学園）、伊藤詩野（会津高校） 総合3位（出漕7クルー）
- ・JM1X：山本葉玖（立命館大学） 総合4位（出漕13クルー）

6 会場施設

(1) 中心施設



瀋陽国際ローイングセンターは、Hun River 沿いに 10.4km 続くオリンピック公園の中央に位置し、艇庫とローイングタンク、ITO meeting room として活用した会議室、夜はオープンラウンジとなる施設が一体型の建物として整備されている

センター入り口からコース方向を望む



ITO meeting room



ローイングタンク



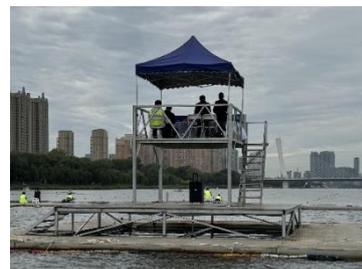
オープンラウンジ

(2) コース全体

① スタートエリア



Judge at the Start



Start Tower

Finish Tower はコース左岸にあるが、コース設定は、左手側から 1～6 レーンとされていた。発艇は、「旗による発艇方式」で行われた。Start Tower は屋根があるうえ、前面のスペースが狭いため、前に身を乗り出して旗を振る必要があった。旗を揚げると、クルーが見えにくくなるため、旗の掲げ方にも一工夫いる状態であった。

また、今大会は、無線に入った発艇号令を Finish Tower で聞き取り、ストップウォッチを始動するスタイルで実施された。音響の関係で、マイクに口をつけて、「Go！」とかなり大声で叫ばなければ無線に発艇号令が入らない状況であり、たびたびスタート号令が届かない事態が発生した。

Aliner からポートホルダーへの指示は、NT0 が中国語にて秘話方式で行われた。



初日第1レース 発艇直前の様子



修正後

初日の第1レース、スタートポンツーンの上で赤色と黄色の服の補助員が立ったままの状態が発艇した。私の乗るUB 2のドライバーに、「補助員は座ること」と、「イエローカードやレッドカードのマーカ―と色がかぶるので、服の色を赤や黄色以外にしてほしいこと」を、中国語で補助員の統括者に伝えてもらい、修正してもらった。しかし、黄色のビブスだけは補助員全員に配付したユニフォームなので、変更できないとのことであった。

②中間エリア



1,000m地点にかかる橋



UBの配置表

UB (Umpire Boat:主審艇) は6艇。しかし、UB 6は終日100m付近でウォーミングアップエリアのマーシャルを担当するよう President of Jury (以後“PoJ”) から指示があった。

また、最後の2日間、UB 5はクールダウンエリアのマーシャルと Final A のレースで1～3位でゴールしたクルーを真ん中の棧橋 (Award-Pontoon) へ案内するよう PoJ から指示があった。

③フィニッシュエリア



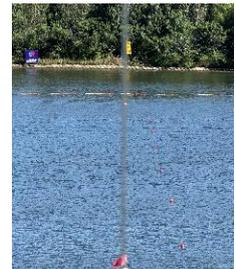
Finish Tower



Judge at the Finish と計時員



スリットカメラ (修正後)



カメラ映像のチェックエリア



ホーンとそれを鳴らす担当者

Responsible-Finish だった大会2日目、スリットカメラを確認すると、見通し板がフレームアウトしているうえ、finish line を表す旗付きブイとも50cmほど start 側にずれていたため、スリ

2024 ASIAN ROWING U19 & U23 Championships



ットカメラ映像担当者に修正を依頼した。



ドローン映像を映す大モニターが横に

また、Judge at the Finishのストップボタンはブザーと連動しておらず、ホーン担当がJSの到達クルーのバウナンバーのコールを聞いて、ホーンを鳴らしていた。

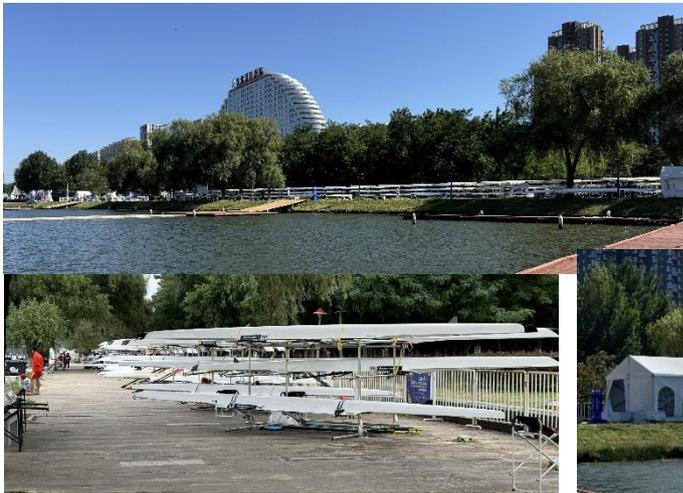
また、全日本大会とほぼ同じ記録システムを準備してあるにもかかわらず、初日から記録はストップウォッチ（手動）でとった記録を正式な記録として採用していたようで、疑問を感じながらも同じやり方で引き継ぐことにした。

途中、かなり競ったレースがあり、スリットカメラ映像をもとにバウボール半分の差であることを確認した。タイム差の修正を行い、Correct Resultとしてサインをし、発表した。

Rank	Team	Name	Start	Finish	Time
1	UZB	MUKHOMBOYEV OBLONKIN KUDHOMBOYEV LADIKH SHERMURDOYEV URBON	01:36:53	01:55:51	04:56:55
2	VIE	NGUYEN THI ANH HUNG NGUYEN QUANG GIEN NGUYEN THAI HUU TRUONG VAN LUONG	01:38:27	01:58:52	04:43:23
3	BAZ	ABEDICOV OYSTRAN TODOROVSKIY ANATOLY SULIMOV BAYMURZIN MIRZAYEV ALIBER	01:39:04	02:06:16	04:46:20
4	KOR	OH JE WON LEE YOUNG HUN JUNG YI CHAN JUNG YUN HO	01:39:31	02:11:57	04:52:57
5	TPE	LEE YU HUAN HSEH TUNG AN LIU HSIANG HSIANG CHANG WEI HSIANG	01:38:25	02:16:08	04:55:05
6	IND	ADHAR KANTH SANKAR MUKHERJEE ABANINDRA SARKAR ABANINDRA SARKAR ABANINDRA	01:38:39	02:09:00	04:47:55

掲示された Result sheet

④コントロールコミッションエリア



艇置き場と栈橋等のレイアウト図



ステッカーを正しい順に貼り替える作業中



禁止されているエリアへの広告、大きすぎる広告やマーク等をテープで隠す

大会初日の午後は Responsible-CC 担当であった。引き継ぐと、出艇棧橋の前にウマがあり、そこに艇を置かせて、NT0 が広告や ID のチェックを行っていた。初めはテープを貼ることも NT0 がしていた。しかし、艇に選手やコーチ以外が直接触れるのはおかしいので、指示のみ行うよう修正を図った。また、ソックスの長さや色、デザインをクルー内でそろえなければならないことを認識していないクルーが意外に多く、そろえるように指示することが多かった。



Boat Weigh



計量器

大会3日目の午後、CC in-Pontoon 担当として帰艇棧橋へ行くと、艇計量の指示も NT0 が行っており、それも艇を棧橋に付ける前に指示していた。間違ったクルーを艇計量対象として伝えている場面もあった。

クルーが艇を差し上げた際に、IT0 から艇計量対象であることを伝えることを担当 NT0 たちと確認した。

⑤表彰エリア



表彰台に立つ日本クルー

Finish Tower のすぐ横に表彰エリアが設けられていた。

Final A のレースでは、UB 5 が Judge at the Finish から無線で着順の速報を受け、1～3位のクルーをクールダウン水域に行かせず、直接真ん中の Award-Pontoon に向かうよう誘導した。

Final A が続く最終日は、日中の最高気温が 13℃しかないうえに風も強く、かなり寒い中でのレースとなり、審判や関係者にはカイロが配付されるほどであったが、日本クルーはたまたま揃いの JAPAN ジャージ等を会場に持ってきていなかった。

表彰式もユニフォーム等をそろえなければならないため、極寒の中でもローイングスーツのみで式に参加することを余儀なくされてしまった。しかし、本大会の Jury メンバー唯一の日本人審判員の身として、表彰台に立つ日本クルーと揚がっていく日の丸を見て、とても誇らしい気持ちになった。

7 その他

(1) PRK (朝鮮民主主義人民共和国) のコール名について

National ジャージの背中には、「DPR of Korea」と表記してあった。そこで、RPK チームとも確認し、ロールコールでは、「DPR of Korea」と呼ぶことで情報共有した。

(2) U19 M1X 予選2組における VIE (ベトナム) のトラブル

「到着遅れ + フォルススタート2回」

NT0 の無線からの電波干渉によって出る「ピー音」で、2回フライングをした。

→到着遅れに対する Yellow Card 1枚のみ として対応した。

(3) U19 M2X 予選1組における KAZ (カザフスタン) のトラブル

1,000m過ぎから KAZ クルーの艇のトップ部分が沈み始め、どんどん浸水し、1,800m付近でキャンバスが水中に隠れてしまい、前になかなか進めない状況となった。UBの指示で救助ボートが集まり、KAZ クルーを救助した。

事後の聞き取りにより、スタートエリアへの回漕中に 250m の距離表示板に接触し、クルーは若干艇の破損があることに気づいてたが、そのままレースに出漕し、水圧で壊れていったようである。



ただ、選手の意向を確認せずに救助し、DNF となったことが問題である。あとの Jury Summary で救助に関する手順の確認があった。当然である。

←大ビジョンに映されていた KAZ M2X クルー



バウボールとバウナンバープレートまで破損

- (4) U19 M2X 予選 1 組 における KSA (サウジアラビア) のトラブル
 ボートホルダーが艇を手前に引き込みすぎて、フィンガーにテールを強く接触させたため、テール部分が破損した。
 そのままレースには参加した。



破損した部分

- (5) U23 M2X 敗者復活 1 組 における IRQ (イラク) のトラブル
 フィンガーに付けた IRQ クルーがボートホルダーに水を要求した。水のペットボトルをもらい、飲んだ。飲み終わった後、スタートポンツーンに大きく投げ返した。

→ Starter の私は、「Yellow Card」を提示。

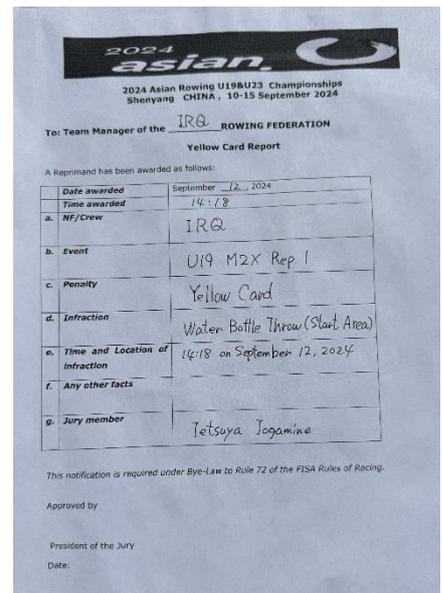
IRQ クルーは「Why?」と叫ぶが、Starter であった私は「No, Water Bottle Throw !」という言葉と身振り手振りでクルーに伝えた。

次のレースに進んだ頃、Assistant Starter を通じて PoJ から、「Bottle Throw は今後『Reprimand 扱い』で」との話を伝え聞いた (※PoJ と Assistant Starter の中国語による無線交信であったため、私には話の内容がわからなかった)。大会前日の TMM の説明と異なる対応となるため疑問が残ったが、そのあとの 2 件ほどの Bottle Throw は注意にとどめた。

しかし、Judge at the Start からの IRQ の Bottle Throw 動画を ITO でも共有・確認したうえで、IRQ クルーの行為は悪質なので、そのまま Yellow Card とすることになった。

→ 「Yellow Card Report」を作成して、PoJ に提出。

当日のレース後の TMM でも再度説明された。



提出した Yellow Card Report

- (6) U19 M1X 準決勝 1 組 における UZB (ウズベキスタン) の沈に関するトラブル

スタート直後の 100m 付近で沈。UB 1 は漕手を救助へ。救助ボートは艇をコース外に引き出した。手間取っている間に他のクルーはどんどん進むが、0m にいる UB 2 は動かない。100m 付近の UB 6 はウォーミングアップ水域のマーシャルに徹し、これも動かない。

250m 付近にいた UB 3 の私は、コースに入ってフォローしてよいか確認する無線を PoJ に送るが、応答なし。そのままレース艇だけ走らせるわけにはいかないので、仕方なく、無許可でウォーミングアップ水域を回り込んでコースに入り、レースを追尾した。1,000m 付近にいた UB 4 に、「そこから主審を交代しよう」と無線連絡したところ、UB 4 がコースに入ってきた。彼らに任せてコース外に出ると、UB 4 もちょっと確認したらコース外に出てきた。

「UB 5 はクールダウン水域にいて、Award-Pontoon にメダリストを誘導していく役をしており、Finish 方面にはもう UB はいない。だから、もう一度コースに入ってレースを追尾し、成立させてほしい」と UB 4 に無線で伝えた。UB 4 が再びコースに戻り、レースを成立させて事なきを得た。

が、チームとして審判業務をしている意識をそれぞれが高くもつ必要性を感じた。当日の全レース終了後の Jury Summary でも確認をした。

なお、救助ボートが運び出した艇は、250m 付近の草むらに放置しており、In-Pontoon まで運ばなくてよいのか確認したが、UB 1・UB 6・救助ボートの担当者のだれもが「聞いていない」と答えるのみだった。結局、全レース終了後に救助ボートが運んで行った。

(7) U23 W4X 決勝における PRK (朝鮮民主主義人民共和国) の トラブル

風が強い状況でコース沿いのウマに置いてあった艇が、風に吹き上げられ、地面に落下してフィンの根本部分が破損した。

予備艇をリギングし直す時間はなく、PRK クルーは簡単な修理をして出漕することを選択し、修理のうえで出漕した。



フィン付近が破損した艇

8 おわりに

I T Oとして初めての国際大会参加であり、それも日本人審判員は私ひとりという状況であったが、アジアの審判員の皆さんの温かいサポートのおかげで、これまでの経験を生かしながら、落ち着いて審判業務を行うことができた。物事に対する感覚や割り切り方はお国柄があるものの、“Rowing”というキーワードのもと、国境を越えて、アジアはひとつになることができるのだなということを改めて実感することができた。英語によるコミュニケーション力をさらに高めるとともに、今回の経験から得た学びを改めて整理し、今後の審判業務に生かせるよう努力していきたいと思う。

また、大会運営に関しては、OCによる気配りや目配りが行き届いており、レース時はもちろんのこと、それ以外のスケジュール管理等についても丁寧かつ細やかな対応がなされており、非常にありがたいと感じた。

最後になりましたが、学校管理職ながら長期休暇を認め、送り出していたいただいた熊本県教育委員会、大津町教育長をはじめとする大津町教育委員会、校長をはじめとする同僚職員および家族に心から感謝するとともに、審判員として派遣していただいた(公社)日本ローイング協会及び熊本県ローイング協会の方々、その他、私とつながり、支えていただいた多くの方々にも併せて感謝申し上げます。